

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:

せん妄を発症した高齢患者の家族の体験と 看護師が実践している家族ケアに関する文献検討

渡邊夕夏 (指導: 野中雅人)

緒言

高齢者は複数の慢性疾患を有している場合があり、生理学的機能や各臓器の機能低下からせん妄を発症しやすい¹⁾ことが報告されている。

黒田ら²⁾は、一般病棟においてせん妄を発症した高齢患者の家族は、せん妄により興奮や混乱している高齢患者を目の前に自分だけでは対処できないことに戸惑いを感じていたと述べている。また三好ら³⁾は回復過程では家族の不安がせん妄症状を助長すると述べている。このように、せん妄の回復に家族の行動・心情が影響を及ぼしている可能性がある。しかし、福田ら⁴⁾は家族に対するケアについて、患者のケアに付随する形でしか存在しないと述べており、家族ケアの不十分さを指摘している。一方で竹内ら⁵⁾は、看護師は患者への対応で精一杯であることが多く、患者の家族にどのような説明がなされているか、或いは心理的な準備状態や家族が負担に思う度合いやニーズについてのアセスメントが不十分のまま、家族に付き添いを依頼する事も多いと述べている。このように看護師はせん妄患者の家族に対する看護が十分でないままケアへの参加を依頼することが多い。

本研究は、せん妄を発症した高齢患者の家族の体験と看護師がせん妄を発症した高齢患者の家族のニーズに対し実践している看護について文献を検索し対比することにより、せん妄を発症した高齢患者の家族ケアについて示唆を得る。

方法

1. 文献検索と文献の選定基準

医中誌 WEB 版で家族の体験について「家族」「せん妄」、看護師の実践について「看護師」「せん妄」をキーワードに検索を行った。検索式は(家族/TH or 家族/AL)and(せん妄/TH or せん妄/AL)、(看護師/TH or 看護師/AL)and(せん妄/TH or せん妄/AL)と、(PT=原著論文、会議録を除く)で絞り込みをした。

選定基準は、せん妄を発症した高齢患者の家族の体験が記載された文献、看護師の実践についてはせん妄を発症した患者の家族へ看護師が実践しているケアが記載された文献とした。除外基準は終末期せん妄を対象にした文献とした。

2. 用語の操作的定義

家族の体験: 高齢患者の家族が、せん妄を発症した高齢患者と共にいることで生じた認識、思考、感情、行動。

3. 分析方法

対象文献を精読し、せん妄を発症した患者の家

族の体験と看護師のせん妄を発症した高齢患者の家族への看護実践として結果に記載された中心的な記述を、意味・内容を損なわないような一文で表しコード化した。グレッグら⁶⁾の質的分析手法を参考に、コードの相違性・共通性に基づきグループ化し、サブカテゴリ、カテゴリを生成した

4. 倫理的配慮

本研究は先行研究に基づく研究であり、引用・参照した文献の出典を明示する。著作権および論文の盗用、剽窃に注意し文献の引用参照は出典を明記した。

結果

検索結果より得られた文献を精査し、家族の体験 26 件から 3 件³⁾⁷⁾⁸⁾、看護師の実践 63 件から 9 件⁹⁾¹⁷⁾を対象文献とした。分析の結果について表 1 に示す。せん妄を発症した高齢患者の家族の体験は 60 コード、15 サブカテゴリ、6 カテゴリが生成された。看護師が実践している家族ケアは、52 コード、16 サブカテゴリ、6 カテゴリが生成された。以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを〈〉で示す。

考察

1. せん妄を発症した高齢患者の家族の体験

高齢患者の家族はせん妄を発症した患者に対して【医療者や他の患者へ気遣いながら治療が継続できるように可能な限り手を尽く】しており、医療者へ配慮しながらも患者を支えていた。家族は〈混乱している間の患者の言葉から今まで見えなかった生きがいや願いに気づ〉いたり、術後の体験を家族と患者で話し合うことで絆を深め、【患者との関わりから得られた心の癒し】を実感していた。せん妄中や回復後、互いの体験やその時の思いを伝えあうことにより、双方の存在を身近に感じ、患者と家族の関係性を維持できると考える。しかし稲岡ら¹⁸⁾はせん妄から回復した後も、負の感情や恐怖の抱え込みを持ったまま、その後の入院生活を送っている患者がいると述べており、患者が周囲の人々に迷惑をかけたと罪悪感を抱き、家族もせん妄時の出来事を思い出すことを忌避してしまうことがあるため、患者状態や家族背景など十分検討しせん妄時の体験や感情表出が出来るように家族をケアする必要がある。

2. 看護師の実践している家族ケア

看護師は家族がせん妄への理解を深めるため【せん妄の症状やケアに関する説明】を実施したり、せん妄予防ケア・せん妄ケアに積極的に参加できるように【せん妄ケアにおける家族の関わり的重要性についての説明】を行っていた。家族のせん妄への理解を深め、不安や悩みに介入することで、感情的

ならず患者へ接する事が可能になると考える。しかし江尻ら¹⁹⁾が述べているようにせん妄ケアを家族へ手放して移譲するのではなく、【入院前の生活状況を踏まえたせん妄ケア】により個別性を捉え、家族に患者状態や関わり方について説明し、【家族を巻き込んだせん妄予防とせん妄ケア】を実施していく必要がある。

3. せん妄を発症した高齢患者の家族の体験と看護師が実践している家族ケアの対比

家族の体験から必要と考えられる家族ケアについてすべてのカテゴリが実践されていた。せん妄患者の家族は不安や恐怖などの精神的苦痛だけではなく、患者と関わりの中で【患者の生きがいや願いを読み取り】、【患者との関わりから得られた心の癒し】を感じとっていた。看護師は【患者と家族の関係性を維持・改善し、絆を深める支援】を実践していたが、これはく患者が入院生活に対して安心感を得ることができるように家族が面会や付き添いができる環境を提供し、付き添いや面会を促すというように主に患者を対象にした看護ケアである。そのため家族が患者と心を通わせることができるように、共に過ごしてきたこれまでの生活を想起させたり、家族の努力を労い、励ますなどの家族に対する支援を行っていく必要がある。

結論

せん妄を発症した高齢患者の家族は看護師から【患者と家族の関係性を維持・改善し、絆を深める支援】を受けながら、患者と共にせん妄時の体験を振り返ることで【患者との関わりから得られた心の癒し】を実感していた。家族は精神的苦痛だけでなく、患者との関わりを通じ、患者の願いや心の癒しを感じ取っており、看護師は患者と家族双方がより心を通わせることができるように絆を深める支援を実践する必要がある。

引用文献

- 1) 村川公央(2020):多職種が稼働した医療チームによる術後せん妄リスク因子の同定と術後せん妄への予防的介入および臨床効果に関する研究,福岡大学薬学集報,20,27-35
- 2) 黒田恵子,藤原扶美,赤松陽子他(2008):入院中にせん妄を発症した患者に直面した家族の不安,日本看護学会論文集:老年看護,39,231-233
- 3) 三好陽子,天野瑞枝(2016):術後せん妄を発症した高齢患者が体験した意識回復までのプロセス,四日市看護医療大学紀要,9(1),61-69
- 4) 福田和美,中尾久子(2015):術後せん妄を発症した高齢患者の家族の体験,The Journal of Nursing Investigation, 13(1,2),20-28
- 5) 竹内沙織,綿貫成明(2012):入院中にせん妄を発症した患者の家族の心理的な変化や反応とそれに対する援助 1983年~2010年の文献検討から,国立病院看護研究学会誌,8(1),27-36
- 6) グレック美鈴,麻原きよみ,横山美江他(2016)よくわかる質的研究の進め方・まとめ方,医歯薬出版,2,64-84
- 7) 藤江さとみ,竹田裕子,加藤真紀他(2020):救命救急病棟でせん妄を発症した高齢患者に付き添う妻の体験,老年看護学,25(1),78-86
- 8) 奥川沙希,井上智子(2014):言語の混乱が見られた心血管術後患者と家族の体験および家族看護支援の検討,お茶の水看護学雑誌,9(1),51-63
- 9) 濱吉美穂,松岡千代(2011):臨床看護師に対するエビデンスに基づく高齢者のせん妄予防ケアガイドラインを使用した教育的介入の評価—EBPの普及に向けた試み—,兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要,18
- 10) 長谷川真澄,栗生田友子,道信良子他(2021):せん妄リスクのある患者への看護実践の知,老年看護学,26(1),69-77
- 11) 古賀雄二,植村桜,伊藤聡子他(2017):急性・重症患者看護専門看護師のせん妄ケアは包括的患者生活管理である,日本クリティカル看護学会誌,13(1),37-48
- 12) 中村陽子(2015):重病下の認知症高齢者のせん妄に関する病院看護師の意識,福井大学医学部研究雑誌,15(1),19-37
- 13) 大西純子,高見沢恵美子(2009):緊急入院した循環器疾患患者とその家族へのせん妄ケアにおける看護師の認識と看護実践の阻害促進要因,日本循環器看護学会誌,6(1),55-59
- 14) 菅原峰子(2016):脳梗塞の急性期治療を受ける高齢患者のせん妄に対する看護ケアの実態,日本早期認知症学会誌,9(2),24-33
- 15) 田原恭子,森田夏代(2017):急性期一般病棟の達人看護師が実践しているせん妄ケアの構造,東京女医大看護誌,12(1),12-18
- 16) 鳥谷めぐみ,長谷川真澄,栗生田友子他(2012):一般病棟におけるせん妄ケアシステムに関する実態と看護管理者と看護師のニーズ,老年看護学,17(1),66-73
- 17) 浦野理香,渡辺みどり,千葉真弓他(2016):看護専門職の自律性によるせん妄ケア実施頻度の比較,長野県看護大学紀要,18,41-52
- 18) 稲岡里奈,ホンサー尚子,植村友紀他(2016):術後せん妄を体験された患者体験の語り,第46回日本看護学会論文集急性期看護,152-155
- 19) 江尻晴美,堀井直子(2013):看護師が認識するせん妄患者への不適切な対応,日本看護医療学会雑誌,15(1),27-34

表1 家族の体験と看護師の実践の対比

家族の体験		看護師の実践	
サブカテゴリー	カテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
混乱症状はいずれ消失するだろう	せん妄症状の変化に回復への兆しを実感	せん妄の症状やケアに関する説明	家族に高齢や入院環境といったせん妄の発症要因やせん妄の病態、症状とともに、一時的なものなので心配しなくていいことを説明する
患者の幻覚についての内容が変化したことから病状が改善してきた前兆を感じ取る			家族への治療体制や先を見越した情報についてオリエンテーションする
医療者に気を使いながらも、家族自身で可能な限り手を尽くす	医療者や他の患者へ気遣いながら治療が継続できるように可能な限り手を尽くす	家族を巻き込んだせん妄予防とせん妄ケア	家族に安全対策として電話や付き添いの承諾を得る
病気の悪化を防ぎ、治療を継続するために、患者の行動を制止する			家族のサポートが必要不可欠であることを誰もが認知し、家族力によるせん妄回避効果を実感している
医療者や他の患者に迷惑をかけて申し訳ない気持ち	せん妄の予測と現実の隔たりによる回復への不安	せん妄ケアにおける家族の関わり的重要性についての説明	家族が感情的にならずに付き添ってくれる
術前の説明から患者の混乱を冷静に受け止め、自分なりにどうしてせん妄になってしまったのか理由を考える			せん妄ケアやせん妄離脱後のケアとして家族の関わり大切さや患者とのかわり方を説明し、協力を得る
せん妄状態からの回復のイメージができない	対応しきれないせん妄による身体的精神的疲労の蓄積	入院前の生活状況を踏まえたせん妄ケア	家族への協力依頼の苦手意識の克服
せん妄症状の予測と現実のギャップ			せん妄離脱後の関わり方と家族の力を説明する
自分では対応しきれないせん妄への対処の困難さ	患者との関わりから得られた心の癒し	家族の身体的精神的疲労に対する情緒的支援	家族から患者の普段の生活状況全般に関する情報を得て、患者変化に気づく
患者との面会による身体的精神的疲労の蓄積			家族への認知力や睡眠状況などの生活状況全般に関する情報収集の増加
術後の体験を患者や家族で語り合うことで互いの絆を深め、心が癒された	患者の生きがいや願いを読み取る	患者と家族の関係性を維持・改善し、絆を深める支援	せん妄ケア提供者として家族の成果を伝え、家族の疲労に対応しながら、ねぎらう
患者を尊重し、状態を理解し、患者に合わせた会話のペースでコミュニケーションを深める			せん妄患者・家族のスピリチュアルペインに対応する
自分だけが苦しいわけではないと自身を励ます	患者の生きがいや願いを読み取る	患者と家族の関係性を維持・改善し、絆を深める支援	家族の質問に答えたり、生活を支援することで不安を解消し、意思を尊重する
混乱している間の患者の言葉から今まで見えなかった生きがいや願いに気づく			家族の関心が病状の重篤な程度と関連しているにも注目する
共に過ごしてきたこれまでの生活の様子から夫の言動を読み取る			患者が入院生活に対して安心感を得ることができるように家族が面会や付き添いができる環境を提供し、付き添いや面会を促す
			家族と患者とのコミュニケーションを促し、家族と患者の関係性を維持・改善する